

こころみ



2005. 10. 18 担当：教頭会

今年度も後半に入りました。秋も深まり、各校とも学習、スポーツ、文化活動等に精力的に取り組んでおられることと思います。大館市第5次学力向上対策、3カ年計画の1年目です。『子どもと教職員の力を1割アップしよう』をスローガンに、4つの共通実践事項を掲げた対策構造図が提言されています。

- ① 小・中連携を通じた学力向上の取り組み
 - 9年間を見通した系統的な指導
- ② NRT, CRT等の検査の分析と結果に基づいた指導
 - 結果を踏まえた日常実践における意識的指導, 補充指導
- ③ 二学期制実施にかかわる教育課程の工夫
 - 学びの連続性を生かした教育課程の工夫
- ④ 各学校間の交流
 - 交流授業等の積極的活用
 - 情報の共有化



いずれの事項についても、各校において取り組まれている内容です。しかしながら、その取り組みの在り方については、学校間の温度差や課題が指摘されているのではないのでしょうか。この3カ年において、その課題解決に向けた、より工夫した実践がなされることによって、大館市全体の学力向上につながってほしいと思います。

学習状況調査の結果が各校に送付され、実態を踏まえた補充指導や指導方法の工夫改善に向けて取り組まれていることと思います。その改善の在り方についても、学校間の連携や諸検査等との関連を十分に図ってほしいと思います。

- 中学1年生の結果を踏まえて、小学校と情報交換を行うことによって、工夫改善に生かす。
- CRTやNRTの、同じ単元における通過率と結果を比較することにより、補充指導の在り方を検討する一助とする。
- 情意面の変容を確実にとらえ、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことのできるための支援の在り方、学習環境づくりに取り組む。

まもなく、小・中とも市教研の第2回総合研究会が実施されます。“全教職員の力で、大館市の子どもたちの「確かな学力」を育てる”気概をもち、情報の共有を図りながら成果と課題をとらえ、各校のそれぞれの実践へとつながることによって、子どもと教職員の力がともに向上することを願ってやみません。

大館市教科学習推進委員会では、学力の定着と向上の施策「パワーアップ」を発行しています。その活用の手引きには、確かな学力を高める視点と方策が載せられています。その項目をピックアップしてみました。指導を点検するための資料として、折々参考にしてください。

1 学習意欲の課題克服に向けて <学習意欲をもたせる4つの内発的動機づけ>

- (1) まず、「面白いからやってみよう」という動機づけ
- (2) 次に、「大事だから」という動機づけ
- (3) 三番目は、「やりがいがあるから」「自信がもてるから」
- (4) 「しなくてはならないことは逃げずにやろう」

2 学力向上のための視点と方策

(1) 学習するための基盤づくり

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 学校と家庭の連携 | ② 住みよい学校づくり |
| ③ 楽しく、やる気の湧く学級づくり | ④ 指導集団の連携 |

(2) 学ぶ意欲を高め、学ぶ力を育てる授業

- ① 学習課題が子どものものになっている授業
- ② 「教科の学び方」が分かる授業
- ③ 学びのリズムを大切にされた授業
- ④ 分かりやすい授業
- ⑤ 進歩が分かる授業



(3) 基礎・基本が定着する授業

- ① 間違いや疑問を大切にする授業
- ② つまずきに適切に対応する授業
- ③ 基本に“馴染む”ための工夫のある授業
- ④ 自己評価で、学び方が身に付く授業

3 授業改善のためのチェックポイント

- ① 単元を通して指導すべきことは何かを押さえていますか。
- ② 本時のねらいを吟味していますか。
- ③ 本時の発問を具体的に吟味していますか。
- ④ 一人一人に学習が成立するよう工夫していますか。
- ⑤ 一人一人の学習状況を見取り、適切に支援していますか。

4 授業の腕を上げるために

- ① 指導内容を欲張らない～ポイントを絞る
- ② 板書の工夫～見やすい板書は学びやすい
- ③ どう頑張るかを教える～ただ「頑張れ」は指導ではない
- ④ 授業の終末を大切にする～定着の鍵は終末にある
- ⑤ 授業に対する子どもの声を聞こう～テスト結果やアンケートの活用を
- ⑥ 他の授業から学ぶ～子どもの学びの様子を知ることが、授業改善の第一歩